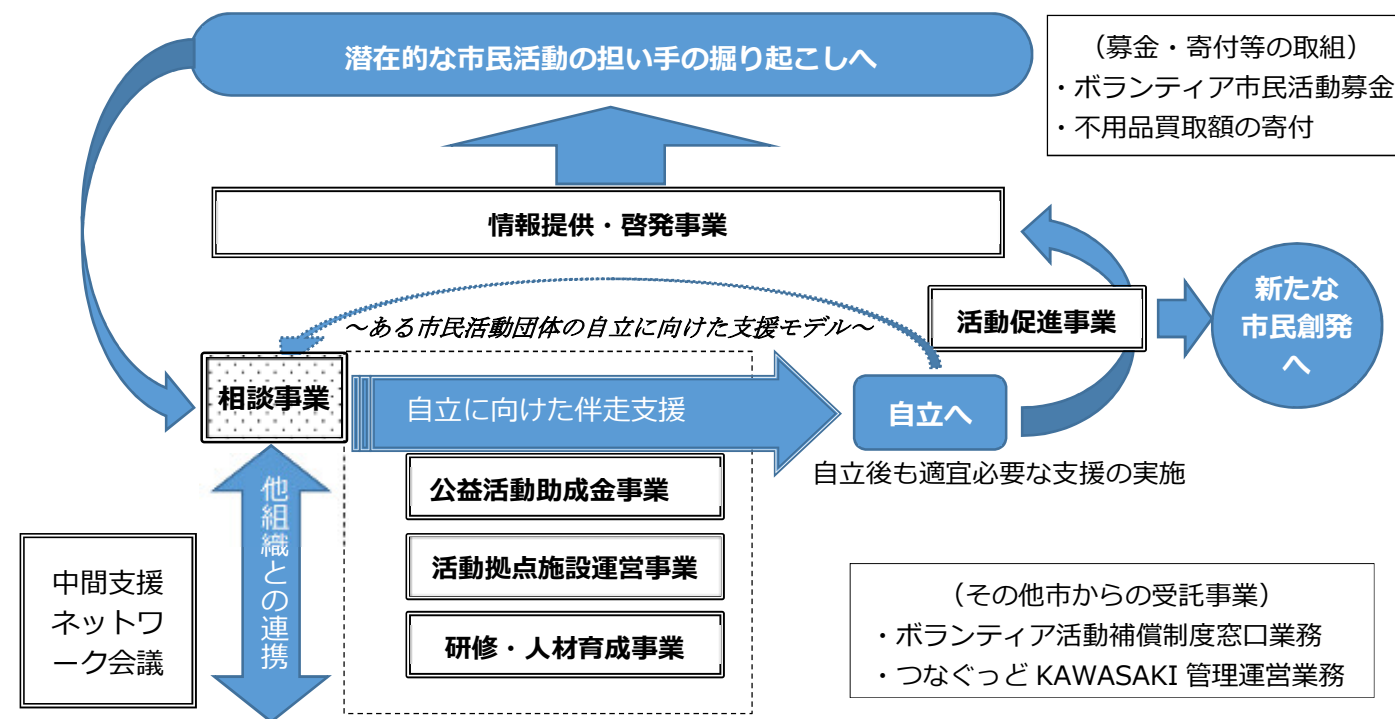


市域レベル（かわさき市民活動センター）の取組について（有識者会議用資料）

■市域レベルの「新たなしくみ」の今後の方向性 概要（「基本的考え方」から抜粋）

- （１）多様な主体による地域コミュニティ形成の支援のための機能等の見直し
事業の在り方など、地域コミュニティ形成への関わり方を検討する。各種補助金やコミュニティファンドなどとの連携や役割分担について検討する。
- （２）ソーシャルデザインセンターとの有機的連携、新たな役割の創出
全市的な中間支援機能を担う各出資法人等においては、かわさき市民活動センターが中核となって「ソーシャルデザインセンター」との連携を進め、テーマに応じて柔軟に役割を果たし合えるような関係性を作り出す。
- （３）中間支援組織の連携強化と効率的・効果的な支援体制の構築
全市的な中間支援機能を担う各出資法人等において、今後は市民創発に向けて、支援やコーディネートに取り組んでいくことが求められる。このため、各出資法人等が持つ情報や支援メニュー等の共有を図り、連携を強化することでより効率的・効果的な支援に取り組む。

1 かわさき市民活動センターの現在の市民活動推進事業展開イメージ



2 中間支援ネットワーク連絡会議（取組の現状と成果・課題）

- （１）現状
市民活動センター、社会福祉協議会・ボランティア活動振興センター、男女共同参画センター、国際交流協会、公園緑地協会、生涯学習財団による連絡会議。年に数回開催されている。
※当初、中間支援組織意見交換会として、各中間支援組織の所管課や区役所等も含んだ会議を開催していた。
- （２）成果と課題
会議を通じて相互に顔の見える関係となったことや、中間支援組織の支援サービスについて情報共有や組織ごとの強みや弱みを相互に理解するきっかけとなった。その一方で、連携を模索し、会議の議論をまとめたが、その場だけのアイデアとなり、その後継続して検討されることなく、具体的な連携についてはアクションがされなかった。共有すべき内容についても一通り共有してしまい、今後の議題を模索している状態である。

3 かわさき市民活動センターの現状（各種事業の成果と課題・悩み等）

活動拠点施設運営事業	会議室・フリースペース・印刷室・情報コーナー、市民活動ブース・ロッカー等の運営 《成果》市民活動団体の全市的な拠点として、会議打合せ、交流の場として活用されている他、必要な事務所機能等を提供しており、活動場所や拠点を探している団体が多い中で、有益な支援となっている。 《課題》コロナ禍以前に比べ、利用者が回復しない状況が続いている。打合せのオンライン化などが進み、対面での会議を行う機会が減っている。
情報提供・啓発事業	情報紙「ナンバーゼロ」の発行、ボランティア募集情報の発信、ポータルサイト運営他 《成果》市民活動団体に有益な情報を提供しており、団体運営の一助を担っている。また、市民活動団体というに対し、市民活動センターがその活動内容等を発信することで、公に PR することができている。 《課題》それぞれの媒体ごとに対象者を設定し、デジタル化を進めながら情報発信を行っているが、潜在的な市民活動の担い手である一般市民に対して、どのように効果的に情報提供するのかが悩み。
活動促進事業	ごえん楽市、ごえんカフェ（市民活動交流会）、ミニカフェ（テーマ型交流会）の開催等 《成果》様々な団体が交流する場をつくることで、団体同士がつながるきっかけとなっている他、自らの活動 PR の機会にもなっており、市民活動に興味を持つ市民への理解や共感を得るきっかけとなっている。 《課題》センターをあまり利用することのない北部・南部のつながりをつくる機会とも捉えているが、普段の関係性の延長でのつながりにとどまっている。
研修・人材育成事業	パワーアップセミナーの開催、市民記者ブラッシュアップ講座の開催 等 《成果》利用者アンケートから、毎回高い満足度を得ており、様々な内容の研修等を実施することで、団体運営に必要な各種能力を市民活動団体の安定的な活動に寄与している。 《課題》活動に有益な研修を企画しても、活動団体の参加に結びつかないケースが多い。
相談事業	職員による市民活動相談、NPO 向け専門相談等 《成果》様々な相談が日頃寄せられており、気軽な相談の入り口から、専門的な相談まで、その時々に応じた対応を行うことで、必要な支援や資源等に結びつけ、市民活動団体の伴走支援に寄与している。 《課題》専門家による無料の相談は、利用価値が高いが、利用者（相談者）が増えていない
公益活動助成金事業	スタートアップ、ステップアップ等のメニュー 《成果》資金支援を通じた様々な伴走支援を行うことで、多くの団体の活動の後押しとなっている。特に助成金を通じた丁寧な伴走支援により、市民活動団体の自立への後押しとなっている。 《課題》新型コロナウイルス感染症の影響もあり、申請件数が減少している。

4 各区との連携

各区との連携に向けて、区役所企画課等と顔合わせの機会を設ける他、各区ソーシャルデザインセンターの運営や創出に向けた会議やイベント等に積極的に出席し、関係づくりを進めている。

5 今後の方向性

- （１）ポストコロナにおけるニーズを踏まえた取組の推進
ポストコロナ時代を見据え、下記連携も意識しながら、ニーズの把握等を実施しながら市民活動センターの強みをより活かす取組を進めていく。また、本市事業との更なる連携、協力についても併せて検討する。
- （２）ソーシャルデザインセンターとの連携に向けた検討
各区 SDC との連携に向けて、現在は市民活動センターの各職員が積極的に情報を取りにいくなど、連携を進めているが、今後は各区 SDC の形態に合わせた関わり方や公益活動助成金や研修事業、啓発事業等における有効な連携について検討を進めていく。
- （３）市域レベルのネットワークの更なる構築
現状の中間組織ネットワーク連絡会議は停滞感がある一方で、各出資法人所管部署間でワーキングを開催したところ、情報共有等に一定のニーズがあったことから、所管部署も交えた会議の開催等、引き続きのネットワーク構築を推進する。